

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	行事企画の中に地域の方と関われる行事内容を毎年、組み込んでおり各行事担当者は地域の方々にも楽しんで頂ける内容を企画し交流を図っています。	開設当初から職員で作り上げた理念があり、地域との関わりを大切に個別ケアの実現に向けて取り組まれている。日々のミーティングで、具体的なケアについて理念を基に話し合い、常に初心に立ち戻り再確認が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事(新年会・暑気払い)に地域の人に参加して頂いている。また職員や利用者も地域行事(松焼き)などに参加し、近所の方から時季の野菜など頂きながら交流を図っている。	小下里地区の町内会に加入し、恒例となっている地域行事への参加や、ホームでの行事にも多くの地域住民の参加を頂いている。季節野菜の差し入れやホームの畑の手伝い等、日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	津南町の認知症地域支援体制構築等推進事業に事業所として参加しています。また毎年法人内で認知症に対する事例発表などを通じて、地域の方々へ発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進会議を行い、ご家族様・民生委員の方・行政の方・地域の方に参加して頂き施設の取り組み、防災や現在の状況等をお話しさせて頂きご意見をいただいている。	活動や状況報告等、活発に意見交換が行われている。会議を通してホームの見学会も開催され、地域の人にホームを知って頂く良い機会となっている。また老人会との連携についての意見を頂き前向きに検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	津南町地域支援体制構築等推進事業に参加していることや運営推進会議にて行政の方に現在の取り組み内容や現在の状況を伝えていきます。また地域の高齢者の現状の情報を収集する為、連絡をとっています。	町が認知症の支援事業に力を入れており、認知症の人を地域で支えていこうと地域包括支援センター職員が旗振り役となり、町ぐるみで取り組んでいる。行政とは気軽に相談できる良い関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会活動中心とし、勉強会や委員からの伝達講習などから職員への理解を深めている。	法人全体の研修会の他、事業所でも委員会を中心とした、全員参加の勉強会を行い理解を深めている。玄関には鈴をつけ、外出される利用者にはさりげなく付き添い、自由な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会活動中心とし、勉強会や委員からの伝達講習などから職員への理解を深めている。	委員会が中心となり「虐待防止3カ条」を朝礼で復唱し確認し合っている。職員のメンタルケアにも力を入れ、ストレスや疲労解消にも取り組んでいる。研修等についても身体拘束と同様の取り組みが実施されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修に参加することで制度に学ぶ機会がありますが、権利擁護の制度についてはまだまだ理解が乏しいのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容の説明などご家族様が分かりやすいよう説明を心掛けています。またご家族様のご意見や要望等も伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	こやまケアアンケートの実施・集計を行い結果についての改善策をご家族様へ配布・施設内に掲示しています。	ご家族にはお便りの他、訪問時や電話連絡の際に意見や要望を聞くようにしている。毎年お客様アンケートを実施し、改善策の検討が行われサービスの向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一仕事業部の会議やひまわりの会議にて職員の意見・提案を聞く機会を設けて話し合いをしています。また、ユニット内で行うチーム会議にて職員からの意見を聞く機会となっています。	毎日のミーティングや「ひまわり会議」で職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。人事考課面接では、管理者と話し合える体制があり、自由目標を設定することで職員の働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度を取り入れることで、職員1人1人目標を持つことでやりがいをもち取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外では役職や職種別・継続年数などによって異なった研修を開いており、対象の職員に意見を聞き参加している。また外部の研修にも進んで参加できるよう自己啓発費用として上限3万円で補助が出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でグループホーム連絡会を定期的に行っており情報のやりとりや交流を行っています。また交換研修をおこなったり、連絡会で良いところを取り入れることでサービスの質の向上に努めています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には家族様からお客様の情報をセンター方式を用いて集め、入居後もアセスメントを行いお客様の安心確保に努めています。センター方式の理解については以前より理解は深まってきていますがまだまだ十分ではないと思っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月写真付きのお便りと近況報告を送っています。また面会時にはお客様とお話できる場をつくるだけでなく、最近の様子などをお伝えし信頼関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に体調確認などを行いお客様の状態を知り、ご家族様からも状態や思いを伺っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下準備や片付け、野菜の収穫などお客様のできることは一緒に行っています。また、お客様のご状態に合わせて、できない所は声をかけさせて頂き支援させて頂いています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様、ご家族様からご希望があった際は、安心・安全に外出・外泊していただける様に支援させて頂きます。	家族と共に支えていく姿勢で個別の外出支援に取り組んでいる。担当職員は、毎月利用者の日ごろの様子や受診の結果など写真を添えてお伝えし、利用者と家族の絆を大切に支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様より、ご希望があった際に外出して頂いたり面会に来られた方とゆっくりお過ごし頂ける様に環境に配慮させて頂いています。また、彼岸の時期には仏様参りに行ったり、昔の知り合いに会ってお話したりと馴染みの人との関係を大切にしています。	年間行事に彼岸のお墓参りを取り入れ、そこで知人と出会い懐かしい再開となっている。日常的には、津南の農協や馴染のパン屋さんに出かけたり、近所の方が面会に来てくれることもあり、それらの関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いお客様同士は席を近くに座っていただいたり、フロアが違って毎日行き来できるように各フロアで協力しています。またお客様同士の関わりがスムーズになるよう、職員が間に入っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院されて退居される方には病院への面会になりますが、他の施設に入所されても面会など伺わせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用してお客様から直接聞けない時は本人様の発言等アセスメントを行い、カンファレンス・モニタリングをおこなっています。	入居時、その人に合ったセンター方式のアセスメントシートを選び、日常の様子や言動を24時間軸で1週間通して記録している。気持ちや言葉にしにくい思いなど、気づき等について話し合い、本人本位に検討している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まだセンター方式の理解や活用方法について不十分ではあるが、計画作成者を中心に活用方法と理解を深めていき本人本位のサービスが提供できるように努めます。	本人や家族、地域の人から情報を得て、アセスメントシートに記録している。生活歴や背景を把握し、より深くその人を知ることで日常会話の幅も広がりつつある。更にセンター方式の活用を進めていきたいと取り組んでいる。	センター方式の活用に意欲的に取り組んでいるが、まだ不十分と感じている職員もいる。今後もセンター方式の活用方法や理解について、研修を継続されることを期待したい。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日お昼に各フロアでミーティングを行い、お客様の状態の変化や様子について情報を共有しています。お客様の状態によっては、カンファレンスを行い話し合っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を中心としたカンファレンスを開催してモニタリング・カンファレンスを行っています。居室担当を中心としたことを始めたばかりで不十分な点がありますが、計画作成者と協力し行っています。ご家族様からのご意見は計画作成を中心に電話等で伺ったり面会時にご家族様にお話を聞いています。	居室担当職員が中心となり、カンファレンスやモニタリングを通じて全職員で検討を重ね、気づき、意見、要望を反映した現状に即した介護計画を作成している。定期的な見直しの他、変化に応じ随時見直しも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調やその時の様子など記録に残していません。またミーティング時に気づきを上げてカンファレンスに活かせるよう残し、介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人様の希望や帰宅要求に対してご家族様から了解を頂いた上で自宅へ一緒に行かせて頂いたり、外泊・外出される時にも支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様が昔から利用されていた馴染みのお店を利用したり、美容院など利用して頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院での担当医が決められていて、定期的に受診をしています。またご家族様にはお便りや面会時などに報告させていただいています。	入居前のかかりつけ医や希望病院への受診を継続している。津南町内への受診はホームで行い、それ以外の病院へは家族にお願いしている。受診結果等についても家族と面談し、共有化が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回看護師が来た時には、お客様の様子を伝え相談しています。また同じ事業部内の老人保健施設の看護師とも、お客様の急変時の対応など連絡を取り指示を仰ぎ対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護連絡票を作成したり、面会・病棟の看護師よりその都度現状について情報を得ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在はいらっしゃいませんが、重度化したお客様に関しては担当の医師やご家族様と今後予想されるリスクなど十分に話し合いを行っています。そしてそのお客様に対してどのように支援していくか職員間で話し合い、協力しています。	看とりケアの実例はないが、今後の重要課題と考え、生活継続が困難と判断する場合の基準について、今後予想されるリスクを含め説明をしているところである。現在は、本人、家族の思いや意向を踏まえ、医師と連携をとって、病院や他施設への移行を支援している。	利用者が重度化してきており、終末期支援の在り方について、事業所ができることを明確にし、医療関係者と連携を図り、チームとして統一した支援体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人として研修等で急変時の対応等勉強する機会がありますが、実践につなげていくにはまだ不十分かと思います。	消防署の救急法の講習に毎年数名ずつ参加しており、伝達講習も行っている。マニュアルについても詳細に整備されているが、実際の場面を経験していない事もあり、いざという時の対応に不安を感じている職員もいる。	緊急や事故発生時の備えとして、実際の場面で活かせる技術を身につけられるよう、現状の起こりうる事態を想定した具体的な実施訓練を定期的に行われることが望まれる。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回事業部全体で避難訓練を行った。通報訓練も二、三ヶ月に一回行っています。去年は隣接している施設との合同避難訓練を行った際は地域の方にも参加のご協力を頂き行いました。	年2回、避難訓練、夜間想定訓練が行われている。地域の消防団員や民生委員の参加も頂き、地域との協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。食料や飲料水の備蓄も準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時は扉などきちんと閉め、声掛けも周りに聞こえないよう配慮しています。声掛けも馴れ馴れし過ぎないように注意しています。	「こやまケア実践評価」を年2回実施し、プライバシーについて自己評価を行い振り返る機会を設けている。職員は利用者が気持ちよく過ごせるよう、声のトーンや言葉かけにも十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様のご希望で甘い物を食べたいと希望があった際に誕生日に合わせて出掛けお客様に楽しんで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物等ご希望があった際は職員と一緒に買って買い物等して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に着る服をお客様に選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日でご本人様のお好きな物を作られせて頂いたり、行事やお彼岸で季節に合った献立を作成しお客様に召し上がって頂いています。	献立は利用者の希望を踏まえて決めており、畑の野菜やご近所から頂いた野菜を使って一緒に調理、片づけを行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲い楽しく食事が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を活用し、お客様の状態に合わせ支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行っており磨き残しある方に対しては介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の排泄リズムを記録から読み取り、トイレ誘導、声掛けを行うことで失敗を少なくしています。また、できる所をご本人に確認しながらして頂いています。	排泄チェック表からその人のタイミングを把握し、さりげなく声をかけ誘導している。基本トイレで気持ち良く排泄できるよう自立支援に取り組んでおり、現在は利用者全員、昼夜共にトイレでの排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜を多く使用しています。また水分を多めにとっていたり、隣の棟へ散歩に行くことで運動量を増やし、便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その方に気持ち良く入浴して頂けるように入浴の誘い方や時間を職員同士で考え工夫しています。	入浴の時間は希望をお聞きし、寝る前に入りたいという方にも出来るだけ希望に添えるよう努めている。仲の良い人同士の入浴希望にも合わせ、気持ちよく入浴してもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる際、部屋の温度を調節したりその方に合った対応で就寝介助をしています。また、昼休みの習慣のある方はお部屋か居間にて休んで頂ける様対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後お薬に変更があった時は当日勤務者に直接伝えたり記録に残して情報を共有しています。また薬板には名前だけでなく効能も記入し、お客様がどのような薬を飲まれているかすぐに分かるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や散歩がお好きな方には外出の支援・貼り絵や習字がお好きな方には習字の提供・料理が得意な方に一緒に料理作りの提供など、その方に合わせた支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など、お客様のご希望を聞きながら散歩やドライブへ出かけています。そして外食企画もたてており、お客様の行きたい所や食べたい物を食べに出掛けています。	自宅や近隣のスーパーなど、一人ひとりの習慣に合わせた個別の外出支援がなされている。また、利用者と職員双方で楽しめる外出として、温泉旅館で豪華な食事会の企画もあり、楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時には立て替えとして買い物の時などに購入させていただいています。またお客様の状態に合わせてご家族様と相談しお金を持ってきている方に対しては、買い物時や保管について注意しながら自由に使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望時は電話をして頂いたり、手紙を書かれた時は送らせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物などは、季節ごとや行事終了後などに変えています。トイレ内や浴室の温度管理もきちんと行っています。夜間等は混乱を招かない様温度など明るさで危険防止にも努めています。	リビングや廊下は天井の梁が見える昔ながらの作りで懐かしさが感じられる。畳の上がりに炬燵があり、ゆっくりくつろげるスペースになっている。壁には思い出の写真や作品がさりげなく飾られ、居心地の良い雰囲気づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂など気の合った方々同士で過ごせる空間作りを行っています。座る場所を複数設置しているので好きな場所で過ごすことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、使用されていた家具・寝具・衣類等お持ち頂いています。また、居心地の良いお部屋になるようご本人の作品を飾ったりしています。	使い勝手の良い大きな押入れがあり、利用者にとって馴染の誂えとなっている。使い慣れたタンスや仏壇を持ち込まれている方も居られ、その人らしく居心地良く暮らせる部屋となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行して頂けるよう廊下には手すりを設けています。また、洗濯干しやたたみ物、食事の盛り付けなどその方のできることをして頂くことで、能力維持に努めています。		